



リリースノート

Astra Automation

NetApp
January 31, 2025

目次

リリースノート	1
このリリースについて	1
Astra Control REST API の新機能	1
既知の問題	7
旧バージョンの Astra Control Automation のドキュメント	7

リリースノート

このリリースについて

このサイトのドキュメントでは、2つのAstra Control導入モデルに含まれるAstra Control REST APIと関連する自動化テクノロジーについて説明しています。

リリースのバージョン管理

Astra Controlのすべてのリリースには、*YY.MM*形式のバージョン番号が割り当てられます。この値は、利用可能になった年（YY）と月（MM）に基づいてバージョンを識別します。たとえば、2023年7月にAstra Control Center 23.07がリリースされました。

ケイデンスを解放します

通常、Astra Control ServiceとAstra Control Centerの更新は同時に実行されます。しかし、これまでのAstra Control Serviceではリリースサイクルが短縮されていました。そのため、最新のAstra Control Centerリリース以降に1つ以上の差分更新が行われました。

Astra Controlの導入

このサイトのドキュメント環境 次のAstra Controlリリース：

- Astra Controlサービス23.07
- Astra Control Center 23.07

このサイトでは両方の導入モデルのREST APIについて説明しているため、一方の導入モデルでしか使用できない機能もあります。この2つの大きな違いは、必要に応じて記録されます。

詳細情報

最新リリースおよび以前のAstra Controlリリースの詳細については、次のページとサイトを参照してください。

- ["Astra Control REST API の新機能"](#)
- ["REST のリソースとエンドポイント"](#)
- ["Astra Control Center 23.07ドキュメント"](#)
- ["Astra Control Service のマニュアル"](#)
- ["旧バージョンの Astra Automation ドキュメント"](#)

ドキュメントの改善にご協力ください

Twitter [*@NetAppDoc](#) *でネットアップのドキュメントに関する通知をお送りしています。また、を作成してフィードバックを送信することもできます ["GitHub の貢献者"](#) または、_doccomments@netapp.com に電子メールを送信します。

Astra Control REST API の新機能

ネットアップでは、Astra Control REST APIを定期的に更新して、新機能、拡張機能、バグ修正を提供しています。

2023年7月27日 (23.07)

このリリースでは、REST APIに対する一部の機能拡張が含まれています。Astra Control ServiceとAstra Control Centerは、どちらも23.07リリースで更新されています。

クローニング処理とレプリケーション処理

クローン処理では、ライブクローンのみがサポートされるようになりました（管理対象アプリケーションの現在の状態）。Snapshotまたはバックアップからクローニングするには、リストア処理を使用する必要があります。また、同じKubernetesクラスタ内のONTAPストレージバックエンド間でアプリケーションをレプリケートできるようになりました。

拡張されたストレージバックエンド

Astra Control Centerでは、次のような追加のストレージバックエンドを使用できるようになりました。

- NetApp MetroCluster（ストレッチ構成）
- ["ロングホーン"](#) 1.5.0以降

新しい実行フックタイプ

Astra Control Centerでは、新しい実行フックタイプ* `post-failover` *を使用できます。

2023年6月27日 (23.06)

このリリースでは、REST APIに対する一部の更新が含まれています。

Azure Marketplace で入手できます

Azure Marketplaceのサブスクリプションは、分単位ではなく時間単位で課金されるようになりました。も参照してください ["請求を設定します"](#)。

RESTIC最適化

フラグを使用して、RESTICバックアップのパフォーマンス最適化を有効にすることができます `useResticParallel` 新しい `astra.datamover` 設定APIリソース。に設定すると `true`、の数 `backendConnections` これは、大容量ボリュームをAzureコンテナにバックアップする場合に使用される容量が増加します。1TB~4TBのボリュームでは、128個の接続が使用されます。4TBを超えるボリュームでは、512のバックエンド接続が使用されます。

2023年5月30日 (23.05)

このリリースでは、REST APIに対する一部の更新が含まれています。

選択的なリストア処理

デスティネーションストレージクラスは、リストア処理またはクローン処理の実行時に選択できます。

自己管理型クラスタ向けの動的ANFプールを実現

ANFストレージバックエンドを備えたプライベートオンプレミスクラスタで管理対象アプリケーションをバックアップする場合、サブスクリプションIDを指定して動的なANFプール機能を有効にできるようになりました。を参照してください ["動的なANFプールを実現"](#) を参照してください。

2023年4月25日 (23.04)

このリリースでは、REST APIに対する一部の更新が含まれています。

選択的なリストア処理

リストア処理中にアプリケーションリソースを選択的に含めるか除外するかを選択できます。これは、特定の名前空間、名前、ラベル、またはGroupVersionKind値に基づくフィルタルールを使用して行われます。

データ専用アプリケーションのサポート

アプリケーション管理のサポートは、データ専用アプリケーションに拡張されました。

2023年1月17日 (23.01)

このリリースには、REST APIのマイナーアップデートが含まれています。

強化された実行フック機能とフィルタ

実行フックを使用するとき、フックが一致するコンテナを制御するフィルタを追加できるようになりました。1つの実行フックに対して複数のフィルタを作成すると、それらは論理AND演算子と結合されます。実行フックごとに最大10個のアクティブフィルタを定義できます。

2022年11月22日 (22.11)

このリリースでは、REST APIの拡張と更新に加え、ネームスペースとLDAPのサポートが強化されています。

Astra の新しいリソース

新しいリソースタイプとして、**apiResource**、**LDAPGroup**、**Idapuser**、***task***の4つが追加されました。また、既存のリソースとエンドポイントがいくつか拡張されています。

長時間のタスクの監視サポート

新しいタスクエンドポイントは、管理タスクリソースへのアクセスを提供し、内部の長時間実行タスクのステータスを表示するために使用できます。

ネームスペース使用シナリオの強化

複数のネームスペースにまたがるアプリケーションと、ネームスペース修飾リソースに関連付けられたクラスタリソースのサポートが追加されました。

クラウドサブスクリプションの拡張

各クラウドプロバイダに対して複数のアカウントサブスクリプションを追加できるようになりました。

追加のワークフロー

Astra Control REST APIを説明するワークフローが追加されました。を参照してください ["インフラワークフロー"](#) および ["管理ワークフロー"](#) を参照してください。

関連情報

- ["Astra Control Center : 新機能"](#)

2022年8月10日 (22.08)

このリリースでは、REST API の拡張と更新に加え、セキュリティと管理に関する高度な機能が実装されています。

Astra の新しいリソース

3つの新しいリソースタイプ、* Certificate、Group、AppMirror *が追加されました。また、いくつかの既存リソースのバージョンも更新されています。

LDAP認証

必要に応じて、Astra Control Centerを構成してLDAPサーバーと統合し、選択したAstraユーザーを認証することができます。を参照してください ["LDAP設定"](#) を参照してください。

拡張実行フック

実行フックのサポートは、Astra Control 21.12リリースで追加されました。既存のスナップショット前およびスナップショット後の実行フックに加えて、22.08リリースで次の種類の実行フックを構成できるようになりました。

- バックアップ前
- バックアップ後
- リストア後のPOSTコマンドです

Astra Controlでは、複数の実行フックに同じスクリプトを使用できるようになりました。

SnapMirrorを使用したアプリケーションのレプリケーション

NetApp SnapMirrorテクノロジーを使用して、クラスタ間でデータやアプリケーションの変更をレプリケートできるようになりました。この拡張機能を使用すると、ビジネス継続性およびリカバリ機能を向上させることができます。

関連情報

- ["Astra Control Center 22.08 : 新機能"](#)

2022 年 4 月 26 日（2004 年 4 月 22 日）

このリリースでは、REST API の拡張と更新に加え、セキュリティと管理に関する高度な機能が実装されています。

Astra の新しいリソース

2 つの新しいリソースタイプが追加されました。* パッケージ * と * アップグレード * です。また、いくつかの既存リソースのバージョンもアップグレードされています。

ネームスペース単位で強化された RBAC

ロールを関連付けられたユーザにバインドする場合は、ユーザがアクセスできるネームスペースを制限できます。詳しくは、* Role Binding API * のリファレンスおよびを参照してください ["RBACセキュリティ"](#) を参照してください。

バケットの取り外し

不要になったバケットや、正常に機能していないバケットは削除できます。

Cloud Volumes ONTAP のサポート

Cloud Volumes ONTAP がストレージバックエンドとしてサポートされるようになりました。

その他の機能強化

2 つの Astra Control 製品の実装には、次のような機能強化が追加されています。

- Astra Control Center への一般的な入力
- AKS のプライベートクラスタ
- Kubernetes 1.22 のサポート
- VMware Tanzu ポートフォリオのサポート

Astra Control Center および Astra Control Service のドキュメントサイトの「新機能 *」ページを参照してください。

関連情報

- ["Astra Control Center 22.04：新機能"](#)

2021 年 12 月 14 日（21.12）

このリリースでは、REST API の拡張に加え、今後のリリース更新で Astra Control の進化をサポートするためのドキュメント構造の変更が追加されています。

Astra Control の各リリースに対応した、別個の Astra Automation のドキュメント

Astra Control の各リリースには、特定のリリースの機能に合わせて拡張およびカスタマイズされた独自の REST API が含まれています。Astra Control REST API の各リリースのドキュメントが、関連する GitHub コンテンツリポジトリに加え、独自の専用 Web サイトで入手できるようになりました。メインのドキュメントサイト ["Astra Control Automation の略"](#) 最新リリースのドキュメントは必ず含まれています。を参照してくだ

さい "[旧バージョンの Astra Control Automation のドキュメント](#)" 以前のリリースについては、[を参照してください](#)。

REST リソースタイプの拡張

REST リソースタイプの数は、実行フックとストレージバックエンドを重視して拡張が続けられています。新しいリソースには、アカウント、実行フック、フックソース、実行フックオーバーライド、クラスタノード、管理対象のストレージバックエンド、ネームスペース、ストレージデバイス、およびストレージノード。[を参照してください](#) "[リソース](#)" [を参照してください](#)。

NetApp Astra Control Python SDK

NetApp Astra Control Python SDK は、Astra Control 環境用の自動化コードを簡単に開発できるようにするオープンソースパッケージです。中核となるのは Astra SDK で、REST API 呼び出しの複雑さを抽象化する一連のクラスが含まれています。また、Python クラスをラッピングして抽象化することで、特定の管理タスクを実行するツールキットスクリプトもあります。[を参照してください](#) "[NetApp Astra Control Python SDK](#)" [を参照してください](#)。

関連情報

- "[Astra Control Center 21.12：最新情報](#)"

2021 年 8 月 5 日 (21.08)

このリリースには、新しい Astra 導入モデルの導入と REST API のメジャー拡張が含まれています。

Astra Control Center 導入モデル

このリリースには、パブリッククラウドサービスとして提供される既存の Astra Control Service に加えて、Astra Control Center オンプレミス導入モデルも含まれています。Astra Control Center をサイトにインストールして、ローカルの Kubernetes 環境を管理できます。2 つの Astra Control 導入モデルは同じ REST API を共有しますが、ドキュメントで必要とされるわずかな違いがあります。

REST リソースタイプの拡張

Astra Control REST API からアクセス可能なリソースの数が大幅に増え、多くの新しいリソースがオンプレミスの Astra Control Center の基盤となりました。新しいリソースには、ASUP、使用権、機能、ライセンス、設定、サブスクリプション、バケット、クラウド、クラスタ、管理対象クラスタ、ストレージバックエンド、およびストレージクラス。[を参照してください](#) "[リソース](#)" [を参照してください](#)。

Astra 環境をサポートする追加のエンドポイント

REST リソースの拡張に加えて、Astra Control 環境をサポートするための新しい API エンドポイントがいくつか追加されました。

OpenAPI のサポート

OpenAPI エンドポイントは、現在の OpenAPI JSON ドキュメントおよびその他の関連リソースへのアクセスを提供します。

OpenMetrics のサポート

OpenMetrics エンドポイントは、OpenMetrics リソースを介してアカウントメトリックへのアクセスを提供します。

関連情報

- ["Astra Control Center 21.08：最新情報"](#)

2021年4月15日（21.04）

このリリースには、次の新機能と機能拡張が含まれています。

REST API の導入

Astra Control REST API は、Astra Control Service と組み合わせて使用できます。REST テクノロジーと現在のベストプラクティスに基づいて作成されています。この API は、Astra 環境を自動化するための基盤となり、次の機能とメリットが含まれています。

リソース

REST リソースには 14 種類あります。

API トークンアクセス

REST API には、Astra Web ユーザインターフェイスで生成できる API アクセストークンを使用してアクセスできます。API トークンを使用して、API に安全にアクセスできます。

収集のサポート

リソースコレクションへのアクセスに使用できる豊富なクエリパラメータセットがあります。フィルタ、ソート、ページ付けなどの処理がサポートされます。

既知の問題

Astra Controlの最新リリースと関連するREST APIの既知の問題をすべて確認しておく必要があります。ここでは、この製品の正常な使用を妨げる可能性のある既知の問題について記載します。導入モデルに応じて、次のいずれかのページを参照してください。

- ["Astra Control Serviceの既知の問題"](#)
- ["Astra Control Centerの既知の問題"](#)

旧バージョンの Astra Control Automation のドキュメント

以前の Astra Control リリースの自動化に関するドキュメントには、次のリンクからアクセスできます。

- ["Astra Control Automation 23.04ドキュメント"](#)
- ["Astra Control Automation 22.11ドキュメント"](#)
- ["Astra Control Automation 22.08ドキュメント"](#)
- ["Astra Control Automation 22.04ドキュメント"](#)
- ["Astra Control Automation 21.12ドキュメント"](#)
- ["Astra Control Automation 21.08 ドキュメント"](#)

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。